

2025 年度(令和7年度)学校評価自己評価表

加茂中学校区	校番 85	福山市立加茂小学校
最終更新日		2026年(令和8年)2月13日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	課題発見・解決力 コミュニケーション力 あきらめない心
<ul style="list-style-type: none"> 小中学校の連携、加茂・山野・瀬戸での定期的な学習をお願いする。 「地域について語れる」児童を育てるための学習を展開してほしい。また、地域の人材発掘も行う。 地域と学校が日常的に連携を取ることが大切である。 小中9年間を見通し、系統性・継続性のあるふるさと学習の内容を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇1小1中という環境にあり、学習面・生活面において、つながりをつくりやすい。 〇問いに対する自分の考えを、文章にしていくことに課題がある。 〇友人との関わりや見方が固定化し、互いの新たな可能性や成長に気づきにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> めざす子ども像(義務教育修了時の姿) 学びを楽しむ・学びを活かす子ども 夢を語れる・自分のことを語る子ども 	
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> ①幼保小中連携 子ども・教職員の交流を通して、幼児期から小中学校までの学びをつなぐ。「幼保小・小中・幼保中」連携した教育活動の実践 ②地域ともにある学校 学校・家庭・地域が連携した教育活動の充実を図る。地域素材を活用した教育活動の実践

III 自校

ミッション	育成する 資質・能力	課題発見・解決力	コミュニケーション力	あきらめない心
〇自分のため、社会のために、仲間とともに、地域とともに、未来をつくることのできる、夢を実現する力を育てる学校	めざす 子ども像 内容等	〇自分の身の回りを見つめて、課題を見出し、解決方法を考えることができる。	〇様々な表現方法で、自分の考えや思いを伝えることができる。	〇「やってみよう」とする意欲をもつ。
学校教育目標		〇解決に向けて、自ら行動したり仲間と協働したりして取り組むことができる。	〇相手の考えや思いを聞き、相手のことを尊重することができる。	〇他に何か方法がないか考えることができる。
現状	研究	テーマ	学びを楽しみ、自ら表現する児童の育成	
<ul style="list-style-type: none"> <児童生徒> 〇明るく、素直な児童生徒が多い。 〇学習意欲のある児童が多く、自分のやりたいことに取り組む児童も多い。 △不登校傾向の児童が多い。 △学習面では、「基礎・基本」の定着や思考力・表現力が十分ではない。 <授業> 〇全国学テの結果分析・主体的な学びの推進のため「任せる、考える・読む・書く」授業を実践した。児童に何を任せるのか、授業で何を考え、何を読み、何を書くのかという視点での教材研究や授業観察を行い、教師間の対話が増えた。児童の「書く」意欲も増えている。 △条件に沿って「書く」ことに課題がある。 △言葉がもつ意味を理解していない。 	内容等	<ul style="list-style-type: none"> 〇国語科・算数科・体育科・総合的な学習の時間・幼保小中連携を柱として ・主体的・対話的で深い学びのある授業づくり ・授業の本質をとらえた授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 〇自分で、みんなで、取り組む中で、新しいことや新しい価値を考えることができる。 〇自分で決めたことを工夫改善しながら続けることができる。 	
	めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童が自ら問いを立て、学習を深めたり、広げたりする授業 ② 児童が自ら学び方を自己決定し、目的を持って学びに向かう授業 ③ 友達との対話や協働的な体験を通して、課題解決を図る授業 		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立加茂小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力を入れた評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	◎短期(中期)経営目標の達成状況	力を入れた評価	達成評価	総合評価
1	課題解決に向けて取り組み、自ら表現する児童の育成	★	新規・継続	<p>○付ける力を明確にし、教科横断的に学びをつくる。</p> <p>○幼保小中連携を図り、授業改善につなげる。</p>	<p>○ことばの力を育てるために、相手や目的意識をもって書く活動を仕組む。</p> <p>○学年のつながりを意識し、カリキュラム作りに活かす。</p>	<p>○文章構成や相手意識を持ち、書くことができる。85%以上</p> <p>○学期末テスト(国算(思考・判断・表現)到達率80%以上)</p>	<p>○文章構成と読み手を意識して、書く。肯定的評価 74%</p> <p>○学期末テスト(思考表) 国 78% 算 67%</p> <p>・目的をもち、指定された条件に沿って文章を書くことが十分にできていない。</p> <p>・学期末テスト(知・技) 国 78% 算 77% 知識技能も習得する必要がある。</p>	2	2	<p>○学年で教材研究や児童のノートを定期的に共有し、PDCA サイクルを効果的に機能させる。</p> <p>○家庭学習や帯タイムで指定された条件で文章を書く機会を増やす。</p> <p>○授業観察(学期に2回)を通して改善案を見出し、授業改善を行う。</p> <p>○学力の状況と、学習形態を見直し、帯タイムに音読の時間と読解問題に全校で取り組む。</p>	<p>□指標に係る取組状況</p> <p>◎短期(中期)経営目標の達成状況</p> <p>○文章構成と読み手を意識して、書く。肯定的評価 86%</p> <p>○学期末テスト(思考表) 国 88% 算 74%</p> <p>○学期末テスト(知・技) 国 82% 算 80%</p> <p>・全校でペア学習を導入したことで、アウトプットの機会が増え、中間層の児童の学力が向上した。</p> <p>・授業を35分程度で構成し、定着のための練習問題の時間を確保したことで、学ぶ意欲が高まった。</p>	3	3	3	<p>○文章題を正しく読み解く基盤として、読書活動を継続するとともに算数科では、図や言葉で「考えを記述し、伝え合う」活動を重点的に行う。問題解決のプロセスを言語化させることで思考力・判断力・表現力の定着を図る。</p> <p>○家庭学習の充実と読書活動の推進を図る。</p> <p>○組織的な授業改善によりどの学級でも質の高い授業がつけられるよう、学年部での授業づくりノートの交流や授業検討等を継続し、標準的な授業の質を担保する。</p>
1	安心して楽しく過ごせる、学べる環境づくり	★	新規	<p>○「あいさつ」「掃除」「そろえる」に取り組む中で、生活基盤を向上させる。</p>	<p>○学級会や児童会、委員会を通して子ども主体の取組活動にし、生活力のレベルアップを図る。</p>	<p>○自分たちの学級・学校生活をよりよく変えることができる。80%以上</p>	<p>○学級や学校をよくするために、自分にできることを1つでも行動にうつすことができる肯定的評価 83.1%であった。</p> <p>・数値は目標を達成しているが、実の姿は達成しているとは言えない。</p> <p>・学級、学校のために自ら考えて行動する児童を増やすための特別活動を仕組むことができた。</p>	3	3	<p>○児童が「あいさつ」「そうじ」「そろえる」といった基本的な生活習慣を継続して実践することで、自分たちの学校をより良くしようとする意識を育て、特別活動を通じて主体的に行動する力を養っていくことを目指す。</p> <p>○共通認識をもてるように学級会や代表委員会を利用し、学校全体で具体的な目標を設定する。</p>	<p>○学級や学校をよくするために、自分にできることを一つでも行動に移すことができるという肯定的評価は89.7%で、中間に比べ、66%向上した。</p> <p>・数値は中間に比べて向上し、目標は達成している。特に、靴そろえができるようになる児童が増え、児童同士が声を掛け合いながら行動を促す姿が見られるようになってきている。しかし、まだ十分に達成できているとは言えない面も残っている。</p>	3	3	3	<p>○学級会や代表委員会などの特別活動の充実を図り、児童が自分たちの学校をより良くしようとする意識を高めるとともに、話し合いを基に自ら考え、決め、行動する力を特別活動を通して育成していく。</p>

